

イエイトグモ

【国内における確認状況】

国内で見つかったことはない。

【生態：生息地など】

- ・主に乾燥した場所に見られる。
- ・主に夜行性で、昆虫やその他の節足動物を捕食する。

【形態：大きさや特徴】

- ・雌で 12mm(最大 15mm) であり、雄は通常雌より小さい。
- ・背甲は薄黄色から赤褐色であり、バイオリンの形をした模様がある。
- ・3 対 (6 個) の目が背甲の前縁に U 字型に並んでいる。

【原産地】

- ・原産地はチリ、ペルー、エクアドル等南アメリカ西部。



“Chilean recluse spider” By Ken Walker



健康被害の具体例

- ・咬まれたときに一過性の刺すような痛みがある。

- ・**初期段階（刺咬後 0～2 時間）**：顕著でない水疱形成、他の咬傷に似ることが多い。

周囲に異常な浮腫と紅斑がほとんど診断できない程度に出現する。小型の水疱が形成される場合がある。

- ・**虚血段階（2～6 時間後）**：最初の診断できる症状として咬傷部位の周囲に虚血域がみられる。

明らかに毒の作用である。中等度あるいは激しい痛みが始まる。

- ・**チアノーゼ段階（5～12 時間後）**：虚血部は徐々に赤から青黒くなる。血管収縮の拡大と局所組織の酸素欠乏が伴う。この段階の初期には病変は咬傷部位の著しい酸素欠乏の進行拡大により無感覚になっている。刺咬部位の周囲に出血や紅斑を生ずる。全体に浮腫性となり、四肢の場合はしばしばリンパ管炎を起こす。

- ・**組織破壊段階（12 時間以上）**：組織の酸素欠乏から局所組織の破壊と壊疽が進行する。

一般にこの段階では、病変部は無感覚である。25% の患者に、24～48 時間のうちに全身症状が現れる。

中等度の発熱、嘔気、不快感、重症の場合は嘔吐、関節痛、せん^{もう}妄、ショック、昏睡になり、全身に麻疹様^{ましんようそうようせい}痒痒性

あるいは出血性^{しゅっけつせいひしん}皮疹が出現する。小児はしばしば重症になりやすい。全身症状を伴う場合は、2～3時間から数日のあいだに溶血が起こる。そのために血尿、ヘモグロビン血症、血小板減少症、黄疸、ネフローゼ、または白血球増加症、タンパク尿もみられる。

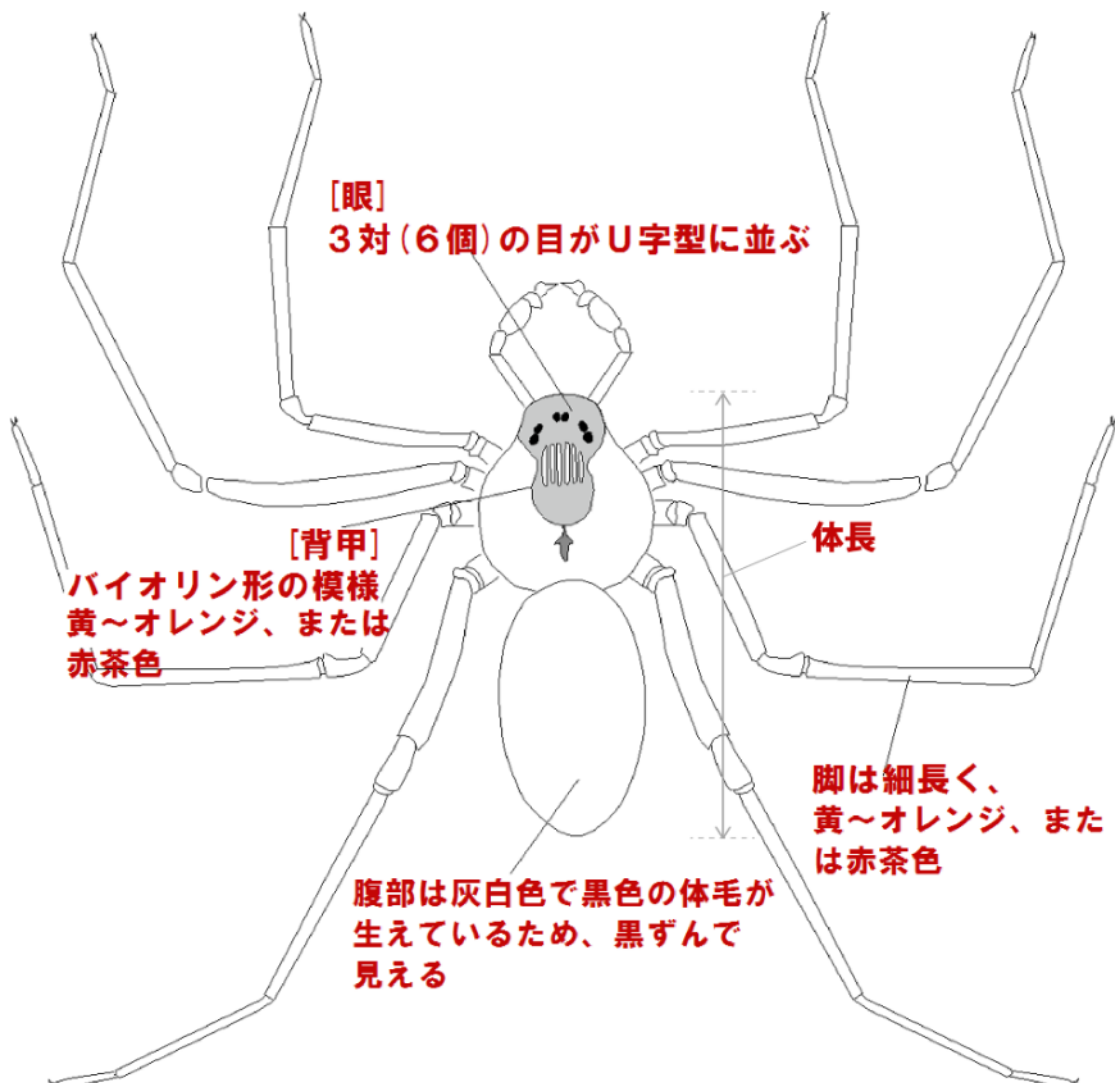
・ブラジルのサンタカタリーナ州では1985年～1995年の間に、イエイトグモ及びL.intermediaによる刺咬症267例が報告され、そのうち4例で死亡が報告されている。

被害を受けた場合の対処法

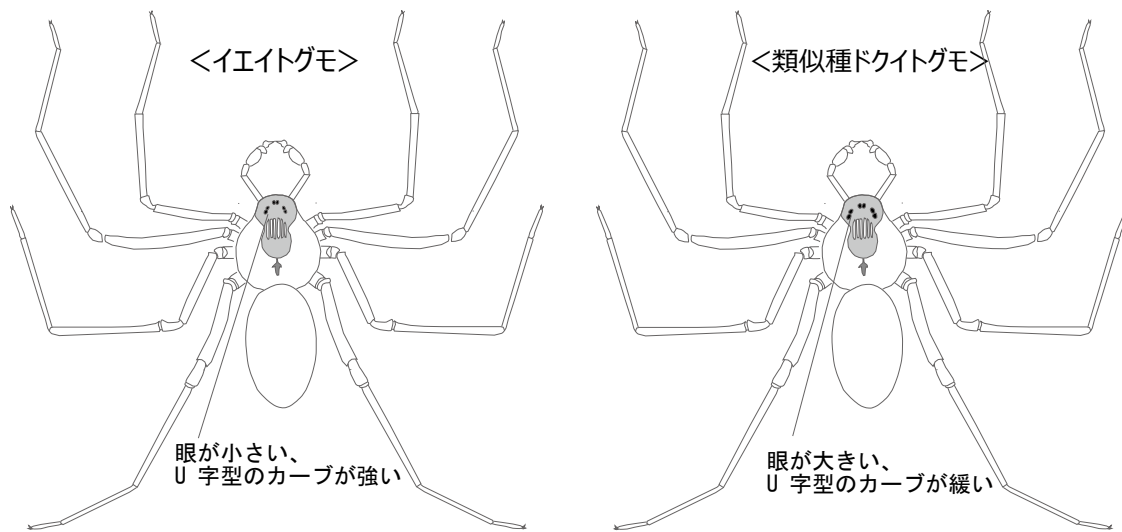
・医療機関を受診

特徴・間違えやすい類似種との識別点

【イエイトグモの特徴】



【間違えやすい類似種との識別点】



特定外来生物指定の他の *Loxosceles* 属 2 種も形態的に酷似しており、背甲の模様パターンや体色に違いが認められるものの、種の判別には生殖器や触肢の形態から判断する必要がある。ただし、本種はドクイトグモに比べると目が小さいとされ U 字型に並ぶ目の配列がより急カーブとなる。

【類似種の特徴】



類似種：イトグモ (*Loxosceles rufescens*)

["Female Emperor Scorpion" By Vijay Anand Ismavel](#)



イトグモ類と同じく、
3 対(6 個)の目が
U 字型に配列

["P1030458v1-cellar-spider" By Donald Hines](#)



イトグモ科と類似の特徴を持つ種 (1) ヤマシログモ科



イトグモ類と同じく、
バイオリン型の模様

"Platnickina tinctoria" By Phil



イトグモ科と類似の特徴を持つ種 (2) ヒメグモ科(写真はホクオウヒメグモ)

駆除方法

- ・クモの駆除には、有機リン系の殺虫剤が有効である。
- ・人家内ではナフタレンを家具の隙間や中に入れておくと効果的である。
- ・米国では室内に定着しているイトグモ類の駆除に粘着性のトラップが商品化されている。

[⇒ 危険な外来生物 Web サイトへ](#)

この資料についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

東京都環境局 自然環境部計画課 / TEL 03-5388-3548 FAX 03-5388-1379